

大いなる愛に抱かれて

梶原武子

昭和四十九年十月のある日、一枚の分譲マンションのカタログを持って学長室を訪れた。半分冗談で、「校長先生（当時はまだこのように呼んでいた）、これ買いたいんですが、お金を貸して下さいや」と私。学園長先生は、カタログに通り目を通しておもむろに、「私はお金を持っていないが、銀行で借りてあげましょう、やってみなさい」とおっしゃったのである。総額千八百七十万円の買物である。容易に購入できる筈もないと、自分に言いかせていただけに、先生のこの決断の早さに私の方が驚いた。まさに「瓢箪から駒」である。

二・三日後に、私は先生に連れられて広島銀行可部支店へ。応接室に通され、支店長と融資係の方にお会いした。

融資を受けるときの常で、係の方が、購入希望の経緯や資金計画、預金・有価証券・不動産などの細部にわたって質問された。すると学園長先生はにこにこしながら、「えっとえっと聴きなさんな、私が保証人になるのだからよろしゅうありますよが」と一言。係の方は「はいわかりました」と言われ、その後の質問はなかった。この学園長先生の一言「天の声」で、オイルショック後の金融情勢の厳しい中で、三百万円の借り入れに成功したのである。かくして僅かながらの自己資金と合わせて頭金を準備し、残りは二十年間のローンを組んで、念願の「夢のマイホーム」を購入することができたのである。これは「してみせて、いうてきかせて、やらせてみせる」という、学園長先生の「体験を通して学ばせる」教育の姿勢ともいえようか。

八階のペランダから己斐方面の美しい夜景が楽しめるこのマンションは、殊のほか気に入っている。居間に飾つてある学園長先生御直筆の『誠』の額が、今日も「為せば成る……」と力強いエールを送ってくれている。嬉しいかぎりである。

もう一つ忘れられないことがある。昭和五十七年私は三年年の担任であった。暮れもおしつまった十二月に、K市出身の寮生T子が不祥事をおこし、その内容が内容だけに本校においておくわけにはいかないとということで、退学の線が浮上した。(寮の運営は学園長先生の管理下にあったのでその中身については先刻ご承知である)

T子は時折風紀の違反をして、その都度指導をしてきた生徒ではあったが、私が指導の限りをつくして「もはやこれまで」と、さじを投げてしまった生徒ではなかった。できることなら今一度自分が納得いくまで指導をし、是非立ち直らさせてやりたいという気持ちが強かった。悩んだあげく学長室を訪ねた。私は日頃から、公私にかかわらず問題にゆきつまったときには、学長室を訪ねてはその指導を仰いでいた。一度「退学」と決まったことを覆し

三、学園運営の寛と厳

て欲しいという気持ちではなかった。唯々、自分の気持ちを聴いてほしかっただけである。私は、自分の指導の至らなさを悔いるとともに、卒業式を二カ月後に控えての「退学」という処遇に対する無念な胸の内を、涙ながらに吐露した。問題行動の経過やその対応など指導の経緯を話していく中で、「このまま退学ということになれば、私の教師生活に悔いが残ります！」と言ったとき、先生のまなざしがキラリと光ったのを忘れることができない。

冬休暇中、先生は何とか編入をさせてくれる学校はないものか、と県内・県外の私学や公立高校の定時制へ交渉にあたられたらしい。三年生の三学期である。どの学校も受け入れてくれるところはない。この問題は紆余曲折し難航に難航を重ねた結果、三月末までは「休学」扱い、四月に復学してもう一度三学年をやる、ということになった。幸せなことに、私は四月再びT子の担任を拝命したのである。再度指導の機会を与えて頂いたことに感謝し、折る思いで指導にあたった一年間であった。T子は表情も穏やかになり落ちついた学校生活を取り戻した。二学期には学級委員となり諸行事を通してクラスを良くまとめくれた。成績もかなり向上して進路も関西方面の短大に決まり、翌年三月T子は、希望に胸をふくらませて学園を巣立っていった。学園長先生の「大いなる愛」に包まれて、一人の生徒が生かされたのである。「教育とは、生徒に対する無限の『愛』と何物をも焼き尽くす『熱』である」とよく語られた。あの学長室での「キラリと光った目」は何であったのかと、時折り思う。これこそ、T子に、そして私に注いで下さった『愛』と『熱』ではなかったかと。

今もつてなお、T子およびその両親から年賀状は勿論、「就職しました」「結婚しました」「子供ができました」と、その節目節目には喜びと感謝の念の溢れる便りが届いている。教師としてこの上ない喜びである。

昭和四十年四月に本校に職を奉じて以来、学園長先生からは語り尽くせない多くの精神的財産を頂いている。こ

の財産を玉の如く大切にし、残り少ない教師生活に専念したい。学園長先生とのご縁を頂いたことに感謝しながら筆をおきます。

合掌